

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL／協同学修 型 AL
	2025-0-31-060	ゼミナール 科目	必修	2 単位	3 年次	通年		
2024-25 年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL／協同学修 型 AL
	2425-0-31-005	ゼミナール 科目	必修	2 単位	3 年次	通年		

① 授業のねらい・概要
牧野ゼミナールⅢでは、財政のテキストの輪読を通し、国あるいは地方の財政と私たちの暮らしの関わりについて学修する。財政について経済学的なアプローチにより考えることで、普段あまり意識はしないが私たちと深いかかわりを持っている税金や行政サービスなどの重要性や問題点に関心を持ち、私たちの暮らしと政府あるいは地方自治体との関係を考察する。 また、ゼミコンパやゼミ旅行など様々なイベントを学生諸君に企画してもらい、ゼミ生同士が大学を卒業した後もお互いに支え合えるような生涯の友人関係を構築できることを目指す。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力
③ 授業の進め方・指示事項
ゼミ生による発表形式で授業を行う。各ゼミ生は割り当てられた教科書の担当箇所の内容をパワーポイントにより報告資料を作成し、授業ではプレゼンテーションを行う。事前準備を怠ると、授業の進行に支障をきたし、他のゼミ生に迷惑をかけることをしっかりと認識し、責任感を持って授業に臨むこと。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「財政学」の知識を有すること。
⑤ テキスト（教科書）※授業で使用する。
『図説日本の財政（令和5年度版）』財経詳報社
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。
竹内信仁編（2013）『スタンダードミクロ経済学』中央経済社 竹内信仁編（2013）『スタンダードマクロ経済学』中央経済社 竹内信仁編著（2007）『スタンダード財政学 第2版』中央経済社
⑦ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
学生諸君が主体的に学修することを意識した授業を目指して行く。
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
（i）プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等がある程度できる。 （ii）報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容を適切に伝えることができる。 （iii）財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明でき、テキストの範囲を超えた内容もある程度説明できる。 （iv）日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 報告資料の作成	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等が適切にできる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等がある程度できる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等が一部できる。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができ、他者に伝わりやすい工夫等ができない。	プレゼンテーション用ソフトによる報告用の資料を作成することができない。
(ii) プレゼンテーションの実施		報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容を適切に伝えることができる。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができ、他者に内容をある程度伝えることができる。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができるが、他者に内容をほとんど伝えることができない。	報告用の資料を使用したプレゼンテーションができない。

(iii) 財政に関する基本的な知識	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲だけでなく、テキストの範囲も超えた内容も他者に適切に説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明でき、テキストの範囲を超えた内容もある程度説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者に適切に説明できる。	財政に関する基本的な知識をテキストの内容の範囲で他者にある程度説明できる。	財政に関する基本的な知識を他者にほとんど説明できない。
(iv) 日本の財政の現状の考察	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けて適切に考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることなく、経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることで経済学の理論や様々な要因と関連付けてある程度考察できる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けることで経済学の理論や様々な要因と関連付けることはできないが、ある程度考察ができる。	日本の財政の現状について、教員の支援を受けてもほとんど考察ができない。

⑩ 学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合				50%	30%	20%	100%
(i) 報告資料の作成				10%	6%	5%	21%
(ii) プレゼンテーションの実施				10%	6%	5%	21%
(iii) 財政に関する基本的な知識				15%	9%	5%	29%
(iv) 日本の財政の現状の考察				15%	9%	5%	29%
フィードバックの方法	プレゼンテーションや資料作成に対し、適宜アドバイスをを行う。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	担当箇所の内容理解と報告準備	60 分
2	日本の財政の概況	日本の財政の概況についての理解	180 分
3	財政状況の国際比較	他国と比較した日本の財政の状況の理解	180 分
4	財政状況悪化の経緯	財政状況悪化の経緯の理解と考察	180 分
5	歳出構成の推移	歳出構成の推移の理解と考察	180 分
6	歳入構成の推移	歳入構成の推移の理解と考察	180 分
7	財政の課題	財政の課題の理解と考察	180 分
8	社会保障と財政の関係	社会保障と財政の理解と考察	180 分
9	国債金利と利払費	国債金利と利払費の理解と考察	180 分
10	家計の金融資産	家計の金融資産の理解と考察	180 分
11	経常収支の変化	経常収支の変化の理解と考察	180 分
12	財政健全化と経済成長	財政健全化と経済成長の理解と考察	180 分
13	財政健全化の取り組み	財政健全化の取り組みの理解と考察	180 分
14	国及び地方の長期債務残高	国及び地方の長期債務残高の理解と考察	180 分
15	国民の受益と負担（国民負担率）の動向	国民の受益と負担（国民負担率）の動向の理解と考察	180 分
16	財政の機能と役割	財政の機能と役割の理解	180 分

17	資源配分の調整	資源配分の調整の理解	180 分
18	所得の再分配	所得の再分配の理解	180 分
19	経済の安定化	経済の安定化の理解	180 分
20	財政学の歴史	財政学の歴史の理解	180 分
21	財政学の発展	財政学の発展の理解	180 分
22	ケインズの裁量的な経済政策	ケインズの裁量的な経済政策の理解	180 分
23	ケインズ経済学への批判	ケインズ経済学への批判の理解	180 分
24	財政赤字の累増がもたらす問題	財政赤字の累増がもたらす問題の理解と考察	180 分
25	公債発行による財政支出をめぐる議論	公債発行による財政支出をめぐる議論の理解と考察	180 分
26	課税の基本原則	課税の基本原則の理解と考察	180 分
27	租税体系	租税体系の理解と考察	180 分
28	応益説と応能説	応益説と応能説の理解と考察	180 分
29	最適課税論	最適課税論の理解と考察	180 分
30	まとめ	各回の講義内容の整理と理解	240 分

⑫	アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL および協同学修型 AL を採用する。ゼミ生によるテキストの内容報告やディスカッションを行い、学修効果の向上に活用する。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬	実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	